

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所 第3委員会室	
		担当職員 池永	
日 時	平成28年6月1日(水曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 10 時 50 分
出席委員	馬場 平本 酒井 富谷 小川 奥村 福井		
理事者 出席者			
事務局	鈴木係長、池永		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 -

会 議 の 概 要

1 開 議

2 案 件

(1) 行政視察のまとめについて

<馬場委員長>

各委員から報告文を提出いただいた。それを踏まえ、各委員から感想をいただきたい。まず、古賀市の介護支援事業、高齢者の外出促進の取り組みについてどうか。

<富谷委員>

60歳からを対象とされていた。ポイント制を導入されていたが、施設だけでなく、家庭の中など、身近なところでお手伝いをされてもポイントが付くのが魅力であった。ポイント制度を有効利用されている。外出支援ですぐに成果が出るのではなく、2年・3年経って介護認定度が下がってきたとのことである。庁内の横断的な協力があって成果が上がってきたと言われていたのが印象的であった。ポイント制に限らず、自分が寄与できるということを目に見える形にすることは本市においても必要である。

<福井委員>

生涯学習の考え方を介護予防に取り込んでおられているのが印象的であった。本市が20年やってきた生涯学習の取り組みをうまく使えていないのではないかと考えた。生涯学習の理念は良いものなので、もっと使えるのではないかとというイメージを得た。

<馬場委員長>

商品については評価が分かれるが、商品を渡している中で自己肯定感を生活の中でしっかりと位置づけている。また、生涯学習の観点からの取り組みをされているという部分で考察をまとめる。生涯学習という時、学習権の保障の観点が重要と故上田正昭先生も強調されていた。所得や年齢に関わらず学ぶ権利がある。そういうことを含めて介護支援に取り組まれているとの観点で考察をまとめる。次に、レベルファイブスタジアムの件についてどうか。

<福井委員>

年間試合数について。公のスタジアムの場合、大分のスタジアムもそうであったが、

高校・中学校サッカー、ラグビー等をさせていた。年間20試合しかできないことはない。芝の管理が1200万円とのことだが、かなり安い。神戸のノエビアは6千万円、トヨタスタジアムが4千万円とのことであった。要はやりようだということが実践例として分かった。

<馬場委員長>

光に対する扱いが慎重であり、住宅地に一切光が漏れない作りになっていたことに感心した。ただ、試合がある時は3千台ほどラッシュが起こるとのことであった。サッカーだけでなくラグビー、アメフトなど多機能で、年間かなり稼働させていた。あわせて芝をしっかり守っていた。

<小川委員>

グリーンキーパーと言われていたが、夏芝・冬芝、試合が済んだ後の芝管理がすごいと感じた。芝の管理が1200万円は安い。スタジアムはできれば多目的に使い、たくさんの人が集う場所になればと考える。駐車場の問題もあるが、緑とともに車が停められるようなスペースとし、一体的なスタジアム・公園が良いと感じた。

<馬場委員長>

次に、武雄市民病院の民間移譲についてはどうか。

<奥村委員>

国立病院を払い下げた病院と、市民の70%以上の人々が求めて実現した本市の病院とは少し状況が異なる。新しい病院が来たら経営を含めていろいろとトラブルが起きるからと地域の開業医等が反対し、市長のリコール運動に繋がった。本来の市立病院の存続という論点とは異なると感じた。市立病院が地域の病院を代表するものであるとは考えていない。地域に合った病院であれば民間でも市立病院でも同じで、医療報酬やサービスが変わるわけではない。民間移譲という考えもあるが、本市とは全く経過が異なるので、今後十分考えていくべきである。病院を作るには、ベッド数を含めて都道府県の許可が必要である。新しい病院を作るのはなかなか難しいので、民間は他の病院を買収し拡大していく。福岡の病院も同様にされたのであり、本市とは少し状況が異なると感じた。

<福井委員>

移譲後、評価委員会を設置し、診療科目も増やされた。民間病院でありながら市民ニーズに応えるような運営をしていこうとされた。民間移譲した場合、このようなものが必要かどうかという視点は勉強になった。

<平本副委員長>

確かに参考になりにくい部分もあった。民間移譲にあたって市民アンケートをとっていないということであった。我々が今後、どういった形で市民ニーズを掴んでいくかが課題となる。

<馬場委員長>

国立が払い下げで市立になった。佐賀医大からの医師派遣の関係で、診療料が減少し救急も取りやめになった経過も聞いたが、最終的には市民の審判と評価委員会という市民コントロールがプラスに働いたことも含めて考察に入れていく。次に、子どもの貧困対策課の新設についてはどうか。

<奥村委員>

今年度から新しく課ができたが、いろいろな課との兼務であった。教育委員会に設置とのことであり、本市でいえば総務文教の所管になるのかとも考える。

<小川委員>

子どもの関係は、教育委員会や福祉など様々な課で取り扱っており、市民が相談に来

られても担当が異なるからそちらで聞いてくださいということがある。教育委員会や福祉など色々な課が一つの課・係になって取り組まれるのは、市民にとっては頼れるものだと感じた。

< 福井委員 >

いろいろな課をまたぎ、座っている場所も違うのに課があるとのことである。必要に応じて集まるということで、ゆるい連携かもしれないが、それでも各課に他の課と繋がることのできる人がいることで、小川委員が言われたような部分も解消できる。本市では部長を対象とした横断的な会議は多いが、下はあまりない。実践の場が繋がりを持てるのは良いことである。

< 平本副委員長 >

子どもの貧困は、武雄市でも久留米市でも、現状を把握するアンケートをとるのが難しいと言われていた。久留米市では、「子ども食堂の呼びかけ＝貧困」と結びつけると、子どもに来てもらうのにハードルが上がると言われていた。本市で貧困対策をする上でアンケートをどうしていくか。また、子ども食堂＝貧困とならないように注意していかねばならないと感じた。

< 馬場委員長 >

8項目のアンケートに感動した。本市は取り組みが遅れている。国が子どもの貧困対策の推進に関する法律を施行し、その中で佐賀県が計画を策定し、連携して武雄市が取り組みを進めている。京都府も計画を立てているが、本市で具体化されているかという、後発の感がある。とりわけ教育委員会がしっかりと中に入り、学校の先生と連携して実態を把握しているのは参考になる。そこを含めて考察していきたい。次に、久留米市の子ども・子育て支援、子育て交流プラザ「くるるん」についてはどうか。

< 奥村委員 >

公立保育所の民営化を進めておられた。本市の公立保育所は人数が少なくて人気がないのが現実であるが、人気があるようにしようとすればできる。何でも民間に任せるとは、本来は、あれだけ良い保育所があるから亀岡市に住もうと思えるような施策を市がしていかなければならない。久留米市は民間に任せて、地域の子育て支援センターを併設しているとのこと、考え方が少し異なる。行財政改革に主眼を置かれている。西鉄の久留米駅の前、商業施設の中に「くるるん」が入っていた。第3セクタービルであり、年間5千万円かかるとのことである。あれだけの駅前で、人が集まりやすいかもしれないが、駐車場がないのが課題である。

< 富谷委員 >

商業施設の中に作っている地域は多いが、広い場所で、いろいろなサービスを1カ所に集中されているのは良い。ただ、なんとか人材はボランティアでまかなっているが、責任者に後がないのが課題とのことである。やっと一日預かり保育のお金が市からおりてきたとのことである。どこでも人材の課題があると感じた。

< 小川委員 >

情報発信を積極的にされていた。子育て便利マップもよく分かる。フェイスブックやメールマガジンなど、いろいろな情報発信をされており、若い世代にとっては良い発信であると感じた。

< 平本副委員長 >

放課後児童会について、延長が夜の7時までと当たり前のように言われていた。地元で聞いていると、やはり5時までに帰って迎えに行くとなると、正規では難しくパートになるとのことである。こうしたことにしっかり取り組まなければいけないと感じた。

<馬場委員長>

「くるるん」は、西鉄久留米駅の前にあり、共働き家庭にとっては便利である。ただ、このままでは存続が難しいと職員が言われていた。ボランティアを中心に子ども・子育てをやっているのは、いくら理念が良くてもボランティアの継ぎ手がない。仕事をしてきた人が退職してボランティアに来るかどうかという点も非常に難しいところである。ある面では公的責任をはっきりさせながら、本市は保育所の設立経過から周辺部が多いが、そこも含めて今現在のニーズに合わせて、役割をどう果たしていくか。そういう角度から考察をまとめていきたい。それでは、各市について、いただいた意見を踏まえ、正副委員長で視察の報告のまとめを考察を含めて作成する。6月定例会の議案審査の際、再度確認いただくので了承いただきたい。

<了>

<奥村委員>

「一時預かり」という表現より「一時保育」の方が良いのではないか。

<馬場委員長>

表現として何が良いのか。検討する。

~ 10 : 38

(2) 病院事業について

<馬場委員長>

インタビューの前提として武雄市を調査したが、アンケートを実施していないということであった。また請求していた資料が市立病院から届いた。それらを踏まえて、今後どのように取り組みを進めていくか。アンケートの場合、自分の疾病についてなど、個人のプライバシーの関係もある。

<福井委員>

アンケートにしてもインタビューにしても、何を目的にとるのかを明確にする必要がある。目的を明確にしないと項目も出ない。

<馬場委員長>

何を調査できるか課題として持ち帰るということで良いか。市立病院から地区別の資料が届いているが、人口対比の資料に作り変えてはどうか。篠町が多いが、つつじヶ丘も意外と多い。客観資料として作り直して、どういう方向で議論するか検討してはどうか。また、類似団体でアンケート等の調査をしているところがあるか調べてはどうか。

<奥村委員>

それで良い。

<馬場委員長>

何か意見があれば正副委員長まで。

<奥村委員>

南丹市や大阪、京丹波から来る人も多い。2カ月という入院基準を超えた人がこちらにまわって来ているということも考えられるのかもかもしれない。

<馬場委員長>

人口対比で資料を作り、配付するので意見をいただきたい。そのような形で良いか。

<了>

<富谷委員>

アンケートを実施するかしないかも決まっていないということが良いか。

<馬場委員長>

そうである。資料を充実させ、今後アンケートをするかしないかを含めた判断をしていく。

3 その他

<馬場委員長>

今回は6月定例会の議案審査である。7月の月例は、各会派の視察もあるので、27日頃で考えている。それも含めて検討しておいていただきたい。

<了>

<馬場委員長>

事務局から何かあるか。

<事務局>

行政視察の精算の確認をいただきたいので、この後、事務局までお願いする。

散会 ~ 10 : 50